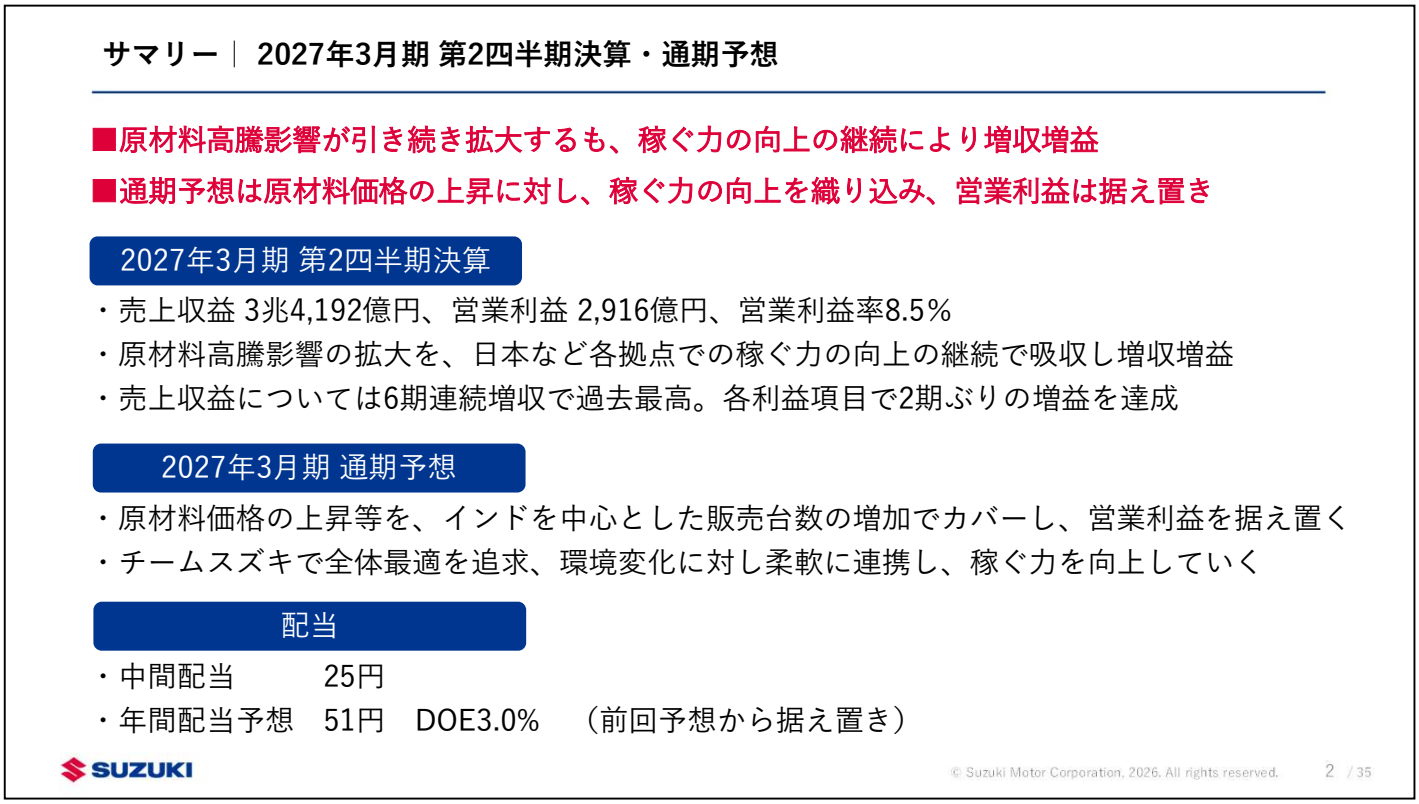
2027年3月期　第2四半期決算説明会



2026年11月10日　スズキ株式会社

（ご参考）表紙画像：新型「e SKY」発表会(2026.10.6開催)の様子



2027年3月期 第2四半期決算のサマリーをご説明いたします。

当期は、売上収益3兆4,192億円、営業利益2,916億円となり、
増収増益となりました。
引き続き、中東情勢悪化による原材料高騰の影響が
拡大しておりますが、旺盛な需要を取り込んだことによる
インドでの販売好調や構成変化の改善等、
各拠点において稼ぐ力の向上を継続したことにより、
売上収益は6期連続増収となり、かつ過去最高を達成しました。
各利益項目も2期ぶりの増益を達成しました。

通期予想につきましては、前回と変わらず、
売上収益6兆9,000億円、営業利益5,400億円を見込んでおります。
原材料価格の上昇などに対し、インドを中心とした販売台数の増加により、
営業利益を据え置きました。

引き続き、チームスズキで全体最適を追求し、
環境変化に対し柔軟に連携して、稼ぐ力を向上していきます。

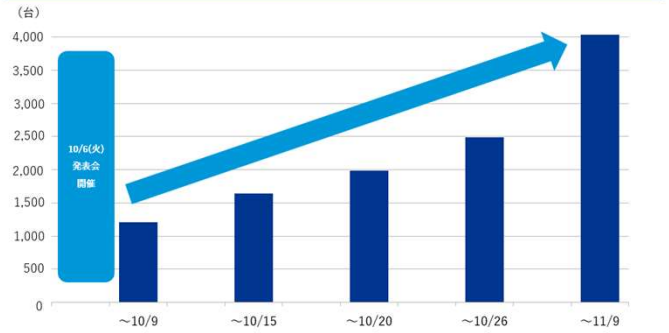
配当につきましては、前回予想から据え置きとし、中間配当につきましては、
1株当たり25円といたしました。
引き続きDOE3.0%を目安とした累進配当の方針に基づき、安定的な株主還元を
実施してまいります。

トピック1：新型「e SKY」の初期受注状況

■スズキ初の軽乗用EV、新型「e SKY」を11月16日より発売

■受注開始約1か月で4,036台の受注をいただき、順調な立ち上がり

新型「e SKY」受注状況推移(累計)



●軽乗用EVの新型「e SKY」発売

・ガソリン車から違和感なくEVへ乗り換えていただけることを目指した「Easy to Switch」が開発コンセプト
・スズキの行動理念である「小・少・軽・短・美」を追求、軽量化・効率化を徹底
・一充電走行距離310km、国内乗用車EVナンバーワンの“電費”、最小回転半径を実現



新型「e SKY」

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

次に、経営上のトピックについて4点、ご説明いたします。

まず1番目に、新型「e SKY」についてです。

足元のトピックとして、10月にスズキ初の軽乗用EV、
新型「e SKY」を発表しました。
スズキの行動理念である「小・少・軽・短・美」を追求、
軽量化・効率化を徹底することで、
国内乗用車EVナンバーワンの“電費”を実現しました。
11月16日から販売を開始いたします。

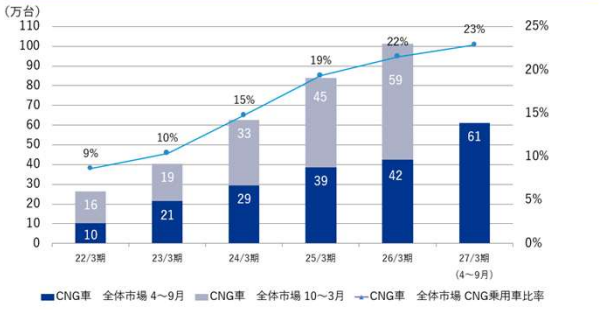
受注開始約1か月となる11月9日までで4,036台の受注をいただき、
順調な立ち上がりとなっております。
発売前より販売店店頭で「e SKY」をご覧いただける機会を
増やし、引き続き拡販に努めてまいります。

トピック2(1)：CNG車市場の動向と当社の取り組み

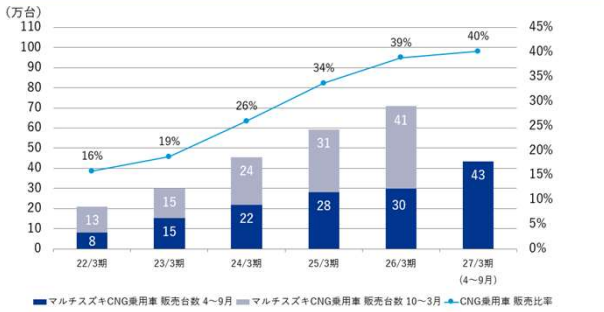
■インド乗用車市場においてCNG車の販売台数・比率は近年急速に拡大

■マルチスズキはCNG車のラインアップを充実させ、27年3月期上期のシェアは7割超

インド　CNG乗用車全体市場



マルチスズキ　CNG乗用車販売



© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

次に、CNG車市場の動向と当社の取り組みについてです。

インド乗用車市場において、CNG車の販売台数は、
22年3月期の約27万台から26年3月期の約101万台と、4年間で約4倍に成長し、
またCNG車の比率も22年3月期の9%から26年3月期の22%と急速に
拡大しました。

また、マルチスズキにおいても、近年、CNG車のラインアップを
充実させており、CNG車の販売台数は、
22年3月期の約21万台から26年3月期の約71万台に、
販売比率は、22年3月期の16%から26年3月期の39%と、増加傾向にあります。
CNG車市場におけるシェアは7割超です。



7月には、CNG対応モデルである新型「ブレッツァ」を投入しました。

左の画像が従来車両の荷室内のタンク、
右の画像が新型「ブレッツァ」車体下部のタンクのイメージです。

新型車では従来、荷室内に配置されていたCNGタンクを、
車体下部へ配置するパッケージングにし、
積載性能をアップ、実用性・利便性を向上させました。
こうした取り組みにより、
CNG車のさらなる普及拡大に努めてまいります。

トピック3：エネルギー領域の取り組みとしてのバイオガス事業およびCBGの環境効果

■ 2027年以降、グジャラート州で新たに2か所のバイオガス・プラントを稼働予定

■ TERIレポートではCBGはカーボンニュートラル/ネガティブとなり得るとの評価

●新たに2か所のバイオガス・プラントの定礎式を実施

・スズキ100%子会社のSRDIを通じ、グジャラート州に9か所のバイオガス・プラントを建設する計画のうち、新たに2か所の定礎式が、10月にモディ首相臨席のもと執り行われた

・両プラントは2027年以降に稼働開始を予定

・「日印CBGイニシアティブ」に基づく、1,000基のバイオガス・プラント導入にも今後、取り組んでいく

・インドの農村に豊富に存在する資源を有効活用し、地域の経済発展に貢献



写真提供：インド政府 Press Information Bureau(PIB)

●TERIレポートによるCBG利用の評価

・9月にTERI(インドエネルギー資源研究所)*が燃料政策に関するレポートを発表

・CBGはライフサイクルで
カーボンニュートラル/ネガティブ
（原料や製造プロセス等の条件による）となり得るとの評価

*TERI…1974年設立のインドのエネルギー・環境・持続可能な開発分野を代表する研究機関の一つ。
インド政府の科学技術ポータルでも、持続可能な開発に関する “leading think tank” と紹介されている。
TERI: Innovative Solutions for Sustainable Development - India

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

次に、エネルギー領域の取り組みとしてのバイオガス事業および
CBGの環境効果についてです。

弊社では、「インフラモビリティ」の取り組みの一環として、
エネルギー領域におけるバイオガス事業を展開しております。

スズキ100%子会社のSRDIを通じ、グジャラート州に9か所の
バイオガス・プラントを建設する計画のうち、新たに2か所の定礎式が、
10月にモディ首相臨席のもと、執り行われました。
両プラントは2027年以降に稼働開始を予定しております。
「日印CBGイニシアティブ」に基づく、1,000基のバイオガス・
プラント導入についても今後、取り組んでまいります。
引き続き、バイオガス事業を通じ、インドの農村に豊富に存在する
資源を有効活用し、地域の経済発展に貢献していきます。

また、9月にTERI(インドエネルギー資源研究所)が燃料政策に関する
レポートを発表し、CBGはライフサイクルで
カーボンニュートラルもしくはカーボンネガティブになり得ると
評価しています。

スズキは、CNG車の販売を拡大しながら、同時に燃料となるCBGの
インフラ整備も進めていきます。



次に、「インフラモビリティ」についてです。

弊社では9月末に、2026年版の「統合報告書」をWebサイトにて公開し、
その中で、弊社の目指す姿としての「インフラモビリティ」と、
社会に対し提供する新たな価値を特集しました。

既存事業で培った強みを活かし、前のページで説明したエネルギーと、
サービスモビリティの2つの領域で新事業を立ち上げます。

サービスモビリティ領域では、専用レーンでの
小型電動車両の自動運転を目指すグライドウェイズ協業事業や、
小型離着陸機による移動を提案するスカイドライブ協業事業を含む
「公共交通サービス」、
多目的電動台車「MITRA」の開発を含む「ワークモビリティ」の2軸から
新たな価値を提供いたします。
MITRAは11/30、グライドウェイズ・スカイドライブは12/10に
事業説明会の開催を予定しております。

事業領域の拡大に必要な知見や技術獲得、地域社会とのつながりを
強めるため、スタートアップとの協業や地域との共存共栄に取り組んで
まいります。

続いて、決算の詳細について、石井より説明させていただきます。

目次

サマリー …… 2

トピックス …… 3～7

2027年3月期第2四半期決算 …… 9～17

- 総括 …… 9
- 四半期毎の業績 …… 10
- 営業利益増減要因 …… 11
- 四輪・二輪台数実績 …… 12～17

通期業績予想 …… 18～22

- 総括 …… 18
- 営業利益増減要因 …… 19・20
- 四輪・二輪台数情報 …… 21・22

補足資料 …… 23～33

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜総括

■売上収益は主にインドでの販売台数増加により増収

■営業利益は原材料高騰影響を、稼ぐ力の向上により吸収し増益

■税引前利益および中間利益は金融資産の評価益等により増益

（億円）		当第2四半期 ('26/4-9)	前年同期 ('25/4-9)	増減	増減率	補足
連結業績	売上収益	**34,192**	28,642	＋5,550	＋19.4%	6期連続増収、過去最高
	営業利益 （利益率）	**2,916** **(8.5%)**	2,765 (9.7%)	＋151	＋5.5%	2期ぶり増益
	税引前利益 （利益率）	**4,014** **(11.7%)**	3,322 (11.6%)	＋692	＋20.8%	2期ぶり増益、過去最高
	中間利益※ （利益率）	**2,537** **(7.4%)**	1,928 (6.7%)	＋609	＋31.6%	2期ぶり増益、過去最高
為替レート	米ドル	**159円**	146円	＋13円	＋8.9%	
	ユーロ	**184円**	168円	＋16円	＋9.5%	
	インドルピー	**1.69円**	1.70円	▲0.01円	▲0.6%	
世界販売	四輪車	**1,824千台**	1,522千台	＋302千台	＋19.9%	インド、パキスタン等で増加
	二輪車	**1,167千台**	1,111千台	＋56千台	＋5.0%	インド、コロンビア等で増加

※ 中間利益は親会社の所有者に帰属する中間利益

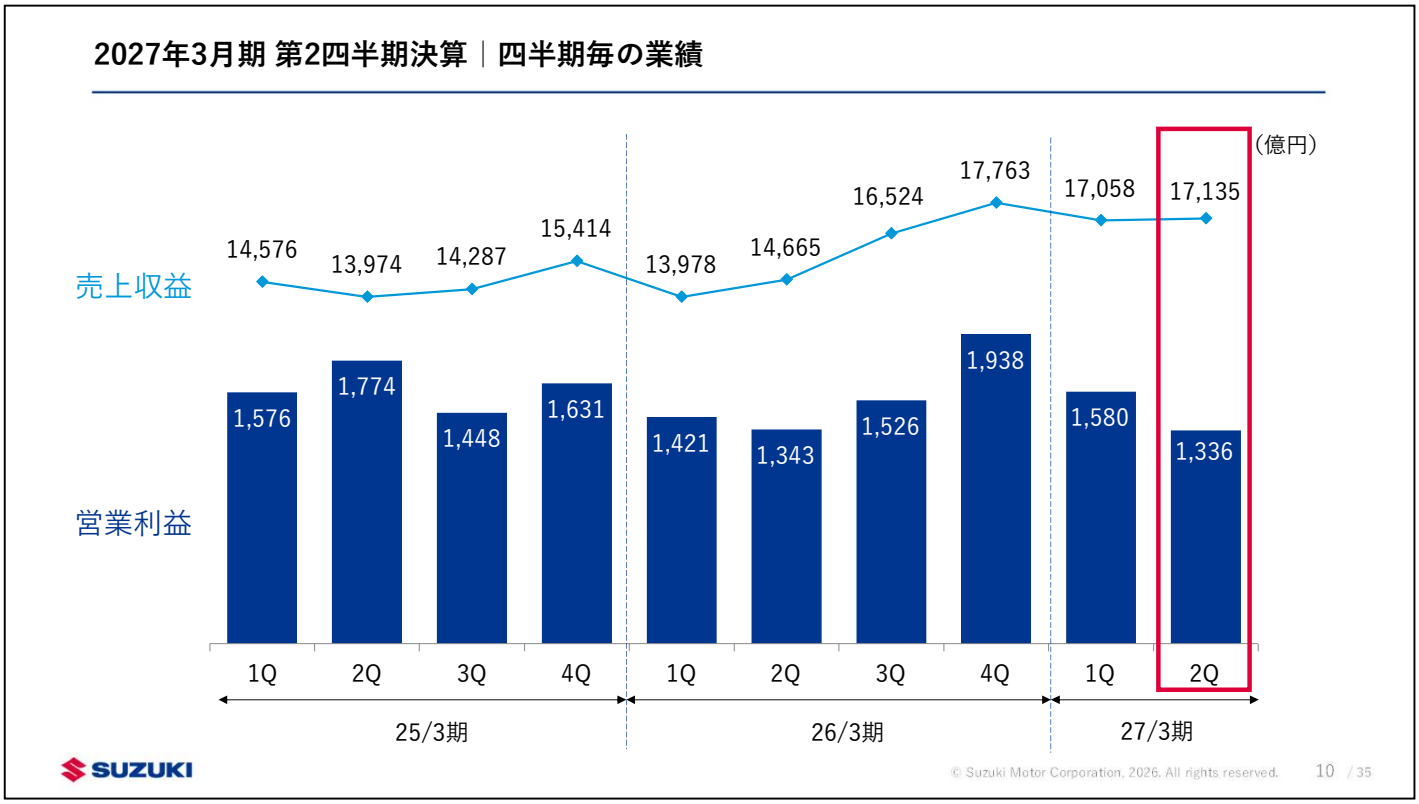
SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

今回の決算の実績をご説明いたします。

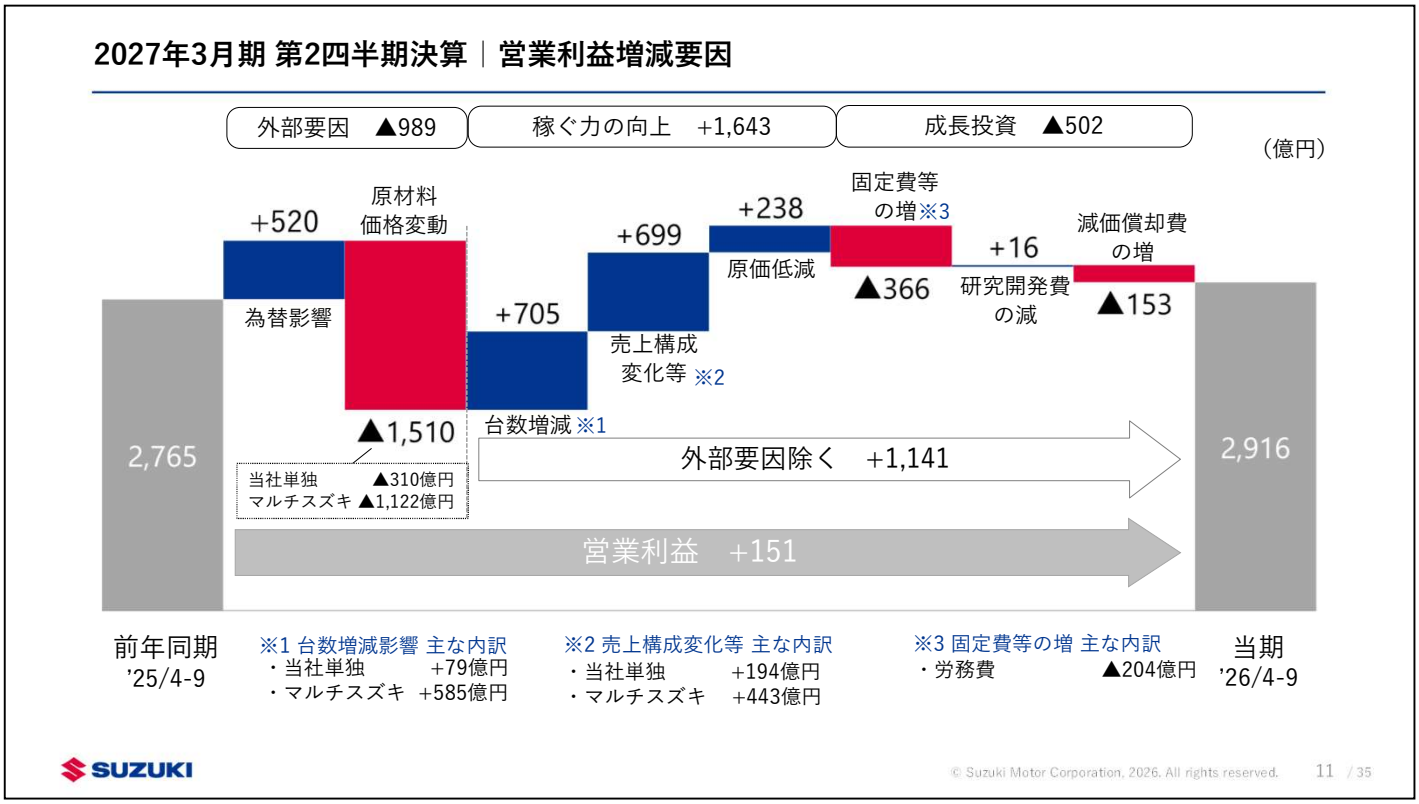
売上収益は主にインドでの販売台数の増加により3兆4,192億円となり、
前年同期比19%の増収で6期連続増収を達成し、過去最高となりました。
営業利益は原材料高騰影響を、稼ぐ力の向上により吸収し
2,916億円となり、5.5%の増益となりました。
金融資産の評価益等により、税引前利益は4,014億円、
中間利益は2,537億円と、増益となりました。

四輪車の販売は、主にインド、パキスタン等での増加により
世界販売合計では30万2千台増加しました。
二輪車の販売は、主にインド、コロンビア等で増加し
世界販売合計では5万6千台増加しました。



四半期毎の業績については、ご覧の通りです。

売上収益は1兆7,135億円と、
第2四半期としては過去最高となりました。
営業利益は1,336億円と、前年並みとなりました。



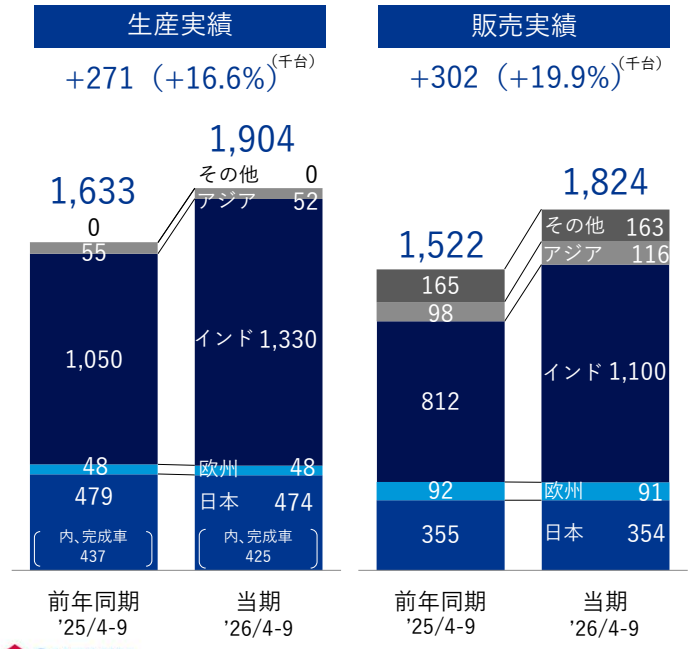
前年同期と比較した営業利益の増減要因は、ご覧の通りです。

外部要因としては、
・為替影響で520億円の増益、
・原材料価格変動では、
主にインドでの原材料価格の上昇により1,510億円の減益
となりました。

外部要因を除く項目では、稼ぐ力の向上の成果として、
・台数増により705億円、
・売上構成変化等により699億円、
・原価低減により238億円、
の増益となりました。

持続的な成長および中期経営計画の達成に向け、投資を拡大したことで、
・人的投資を中心とした固定費等で366億円の増加、
・減価償却費で153億円の増加、
となりました。
研究開発費については16億円の減少となりましたが、
下期以降、計画通りに投資を進めてまいります。

四輪台数実績｜グローバル



● 当期の世界販売

（千台）

	台数	前年同期比	
世界販売	1,824	+302	+19.9%
日本	354	▲1	▲0.3%
欧州	91	▲0	▲0.4%
インド	1,100	+288	+35.4%
アジア（除インド）	116	+18	+18.6%
パキスタン	54	+11	+26.7%
インドネシア	35	+5	+17.8%
フィリピン	9	▲2	▲19.5%
その他	163	▲2	▲1.4%
アフリカ	66	+4	+5.8%
中南米	64	+4	+7.6%
中東	23	▲9	▲28.8%
大洋州	10	▲1	▲11.7%

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

次に、生産・販売の状況についてご説明いたします。

四輪車の生産につきましては、
新製造ラインが稼働を開始したインドで大幅に台数を増やし、
前年同期に対し、世界全体で27万1千台増加となる、
190万4千台となりました。
5月にカルコダ第二、7月にハンサルプール第四ラインが立ち上がり、
インド全体の生産能力は合計50万台増加し、
290万台となっております。

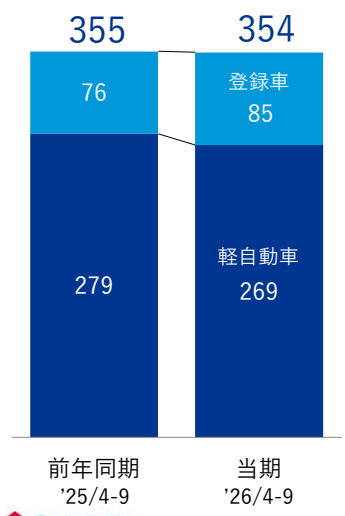
販売台数は、昨年のGST改定以来、旺盛な需要が続くインドや、
販売好調なパキスタン等で台数を増やし、
前年同期に対し、30万2千台上回る182万4千台となりました。

四輪販売台数｜日本

販売実績

（千台）

▲1（▲0.3%）



● 当期の販売状況

・軽自動車と登録車の合計販売台数は、上期では7期連続のシェア2位
・軽自動車では「スーパーキャリイ」等が好調
・登録車では「クロスビー」、「ジムニーノマド」等が高水準を維持

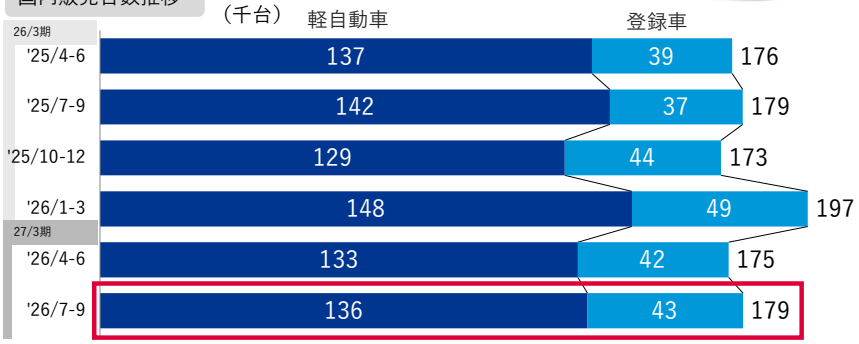
「スーパーキャリイ」



「ジムニーノマド」



国内販売台数推移

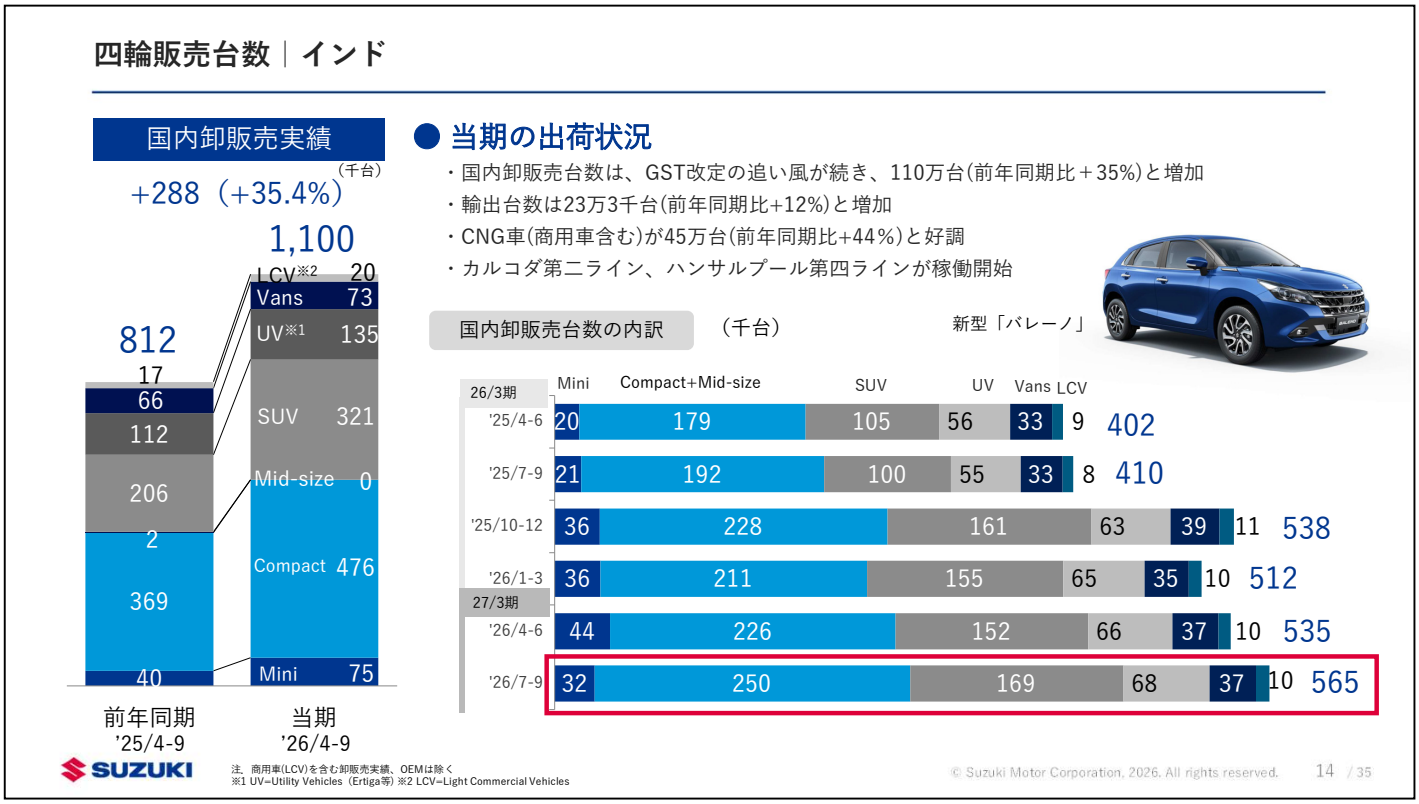


SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

次に日本の四輪販売実績についてご説明いたします。

当期の販売において、軽自動車と登録車の合計販売台数は、
上期では7期連続のシェア2位となりました。
軽自動車では「スーパーキャリイ」、
登録車では「クロスビー」、「ジムニーノマド」等の販売が
好調に推移しました。



インドの四輪販売の状況です。

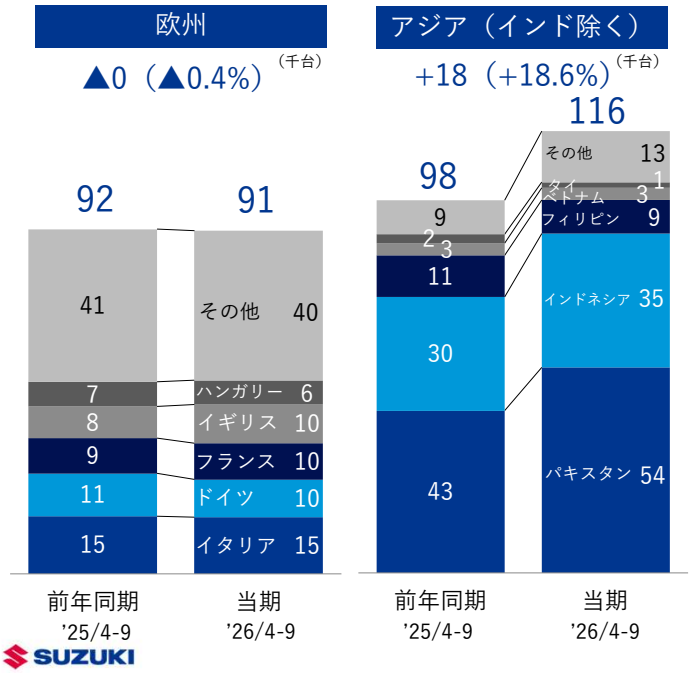
当期につきましては、
卸販売台数は前年同期がGST減税前の買い控えのため低かったことに加え、
GST改定の追い風の継続により、
110万台と前年同期より35%増加しました。
SUVセグメントに加え、小型車でも大幅に台数を増やしました。

輸出台数は、前年同期比12%増となる23万3千台となりました。

商用車を含むCNG車が前年同期比44%増となる45万台と好調です。

カルコダ第二ライン、ハンサルプール第四ラインも稼働開始し、
生産台数を増やしております。

四輪販売台数｜欧州 / アジア（インド除く）



● 当期の販売状況

◆ 欧州

・市場競争が激化するなか、販売実績は前年同期並み

◆ パキスタン

・堅調な需要により全体市場は伸長
・外貨不足からの回復に伴い生産部品の輸入も比較的安定
・販売実績は5万4千台（前年同期比+26.7%）と拡大

◆ インドネシア

・販売実績は3万5千台（前年同期比+17.8%）と拡大
・7月末より、7人乗りSUVの「XL7」を外観変更して投入



「XL7」

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

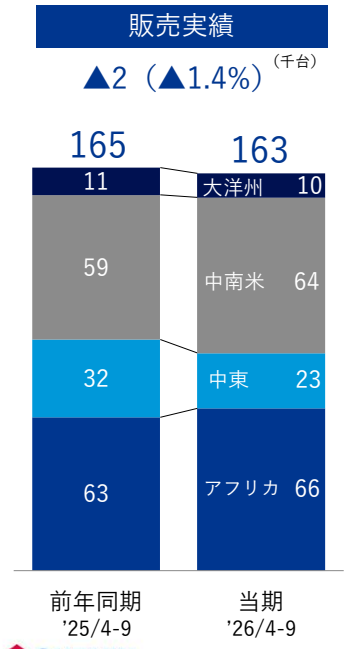
続いて欧州とアジアの販売状況です。

欧州では、市場競争が激化するなか、
前年同期並みの販売実績となりました。

パキスタンでは、
安定した経済状況を背景に全体市場が拡大しており、
また、外貨不足からの回復により生産部品の輸入も
比較的安定していることから、
当期の販売実績は5万4千台と、
前年同期に比べて26.7%の増加となりました。

インドネシアでは、7月末より、7人乗りSUVの「XL7」を
外観変更して投入しました。

四輪販売台数｜アフリカ・中東・中南米・大洋州



● 当期の販売実績

（千台）

	台数	前年同期比	
アフリカ	66	+4	+5.8%
南アフリカ	36	+0	+0.3%
アンゴラ	11	+2	+21.8%
中東	23	▲9	▲28.8%
サウジアラビア	16	▲3	▲18.0%
中南米	64	+4	+7.6%
メキシコ	14	▲4	▲22.5%
チリ	11	+0	+0.4%
コロンビア	10	+3	+48.5%
大洋州	10	▲1	▲11.7%

● トピックス

・アフリカではアンゴラの販売が前年同期比21.8%増でシェア1位(75.1%)と好調

・中南米での販売が堅調で、特にコロンビアで販売台数を大幅拡大

・中東ではイラン情勢の影響を受け減少

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

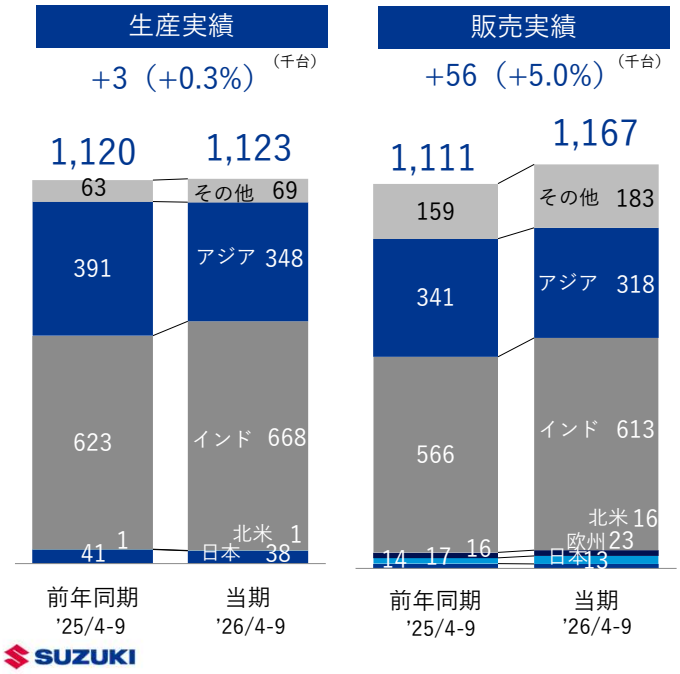
アフリカ・中東・中南米・大洋州の販売状況です。

アフリカでは、アンゴラの販売が前年同期比21.8%増、シェア75.1%と1位で好調です。

中南米では販売が堅調で、特にコロンビアでは通貨の安定により市場が伸長する中、「フロンクス」、「スイフト」等のハイブリッド車が市場に受け入れられ、販売台数を大幅に拡大しています。

中東ではイラン情勢の影響を受け、販売台数が減少しております。

二輪台数実績｜グローバル



●トピックス

◆EICMA2026 で新型「GSX-10R」と新型「SV-7S」を発表

・スズキの二輪づくりの思想を継承し、現代のライダーの要求に応えるパッケージとした
・「GSX-10R」 は 2027年夏頃、「SV-7S」 は 2027年春頃より各国で順次販売を開始する予定


新型「GSX-10R」


新型「SV-7S」

◆7月に二輪車・ATVの世界累計生産台数1億台を達成

・1952年の「パワーフリー号」の発売以来、幅広いラインアップを取り揃え全世界で販売
・二輪車：9,740万台、ATV：277万台

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

次に二輪車の販売状況についてご説明いたします。

主にインドでの販売拡大に伴い、生産、販売とも前年同期を上回りました。
また、欧州でも市場回復を追い風に、新商品投入による
ラインアップ拡充を図ったことで、各国での好調な販売に
つながりました。

トピックスとして、先週ミラノで開催された国際モーターサイクルショーである「EICMA2026」にて、新型「GSX-10R」と新型「SV-7S」を
発表しました。
「GSX-10R」 は 2027 年夏頃、「SV-7S」 は 2027 年春頃より、
各国で順次販売を開始する予定です。

また、7月に二輪車・ATVの世界累計生産台数1億台を達成しました。
1952年の「パワーフリー号」の発売以来、お客様に寄り添い、
幅広いラインアップを取り揃え全世界で販売を展開し、
74年での達成となりました。
内訳は、二輪車が9,740万台、ATVが277万台となっております。

事業別業績は補足資料に記載しております。
二輪事業、マリン事業とも、増収増益となりました。

通期業績予想｜総括

■営業利益は原材料価格の上昇等を、インドを中心とした販売台数の増加でカバーし、前回予想を据え置き

■税引前利益は、前回予想から300億円下方修正も、当期利益は据え置き

(億円)		通期予想 ('26/4-'27/3)	前期実績 ('25/4-'26/3)	増減	増減率	補足	前回予想との比較 前回予想	前回予想との比較 増減
連結業績	売上収益	**69,000**	62,930	＋6,070	＋9.6%	6期連続増収	69,000	
	営業利益 (利益率)	**5,400 (7.8%)**	6,229 (9.9%)	▲829	▲13.3%	2期連続減益	5,400 (7.8%)	
	税引前利益 (利益率)	**6,900 (10.0%)**	7,307 (11.6%)	▲407	▲5.6%	7期ぶり減益	7,200 (10.4%)	▲300
	当期利益※ (利益率)	**4,200 (6.1%)**	4,393 (7.0%)	▲193	▲4.4%	7期ぶり減益	4,200 (6.1%)	
為替レート	米ドル	**159円**	151円	＋8円	+5.5%		158円	＋1円
	ユーロ	**181円**	175円	＋6円	+3.6%		183円	▲2円
	インドルピー	**1.68円**	1.72円	▲0.04円	▲2.3%		1.68円	
世界販売	四輪車	**3,702千台**	3,320千台	＋382千台	＋11.5%		3,579千台	＋122千台
	二輪車	**2,398千台**	2,261千台	＋137千台	＋6.1%		2,337千台	＋60千台

※ 当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

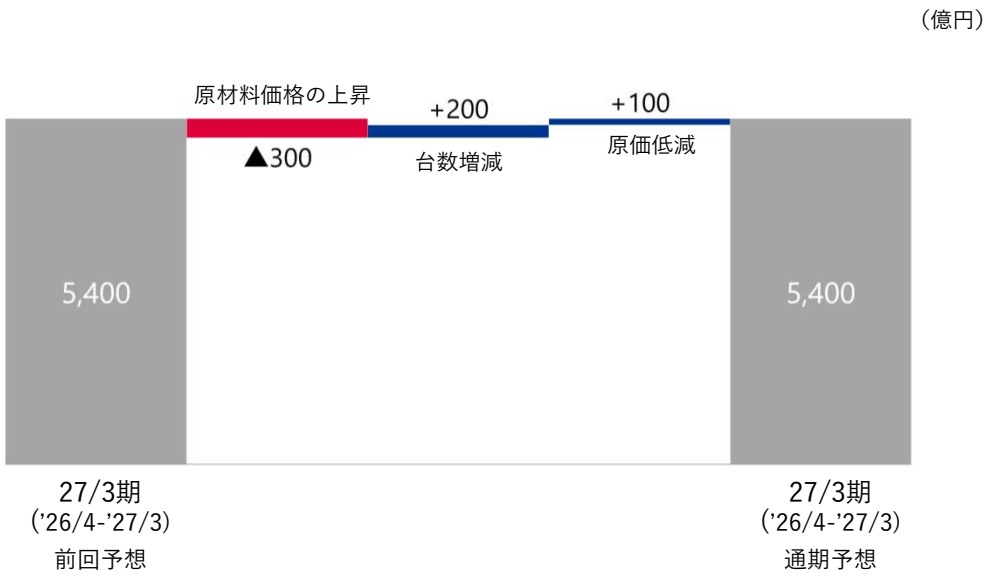
通期業績予想についてご説明いたします。

営業利益は原材料価格の上昇等を、インドを中心とした販売台数の増加で
カバーすることを踏まえ、
前回予想の5,400億円を据え置いております。

税引前利益については、7～9月期の金融資産の評価損を織り込み、
前回予想から300億円下方修正となる、6,900億円を見込んでおります。

当期利益については、非支配持分に帰属する利益の減少などを見込み、
前回予想の4,200億円を据え置いております。

通期業績予想｜営業利益増減要因・対前回予想

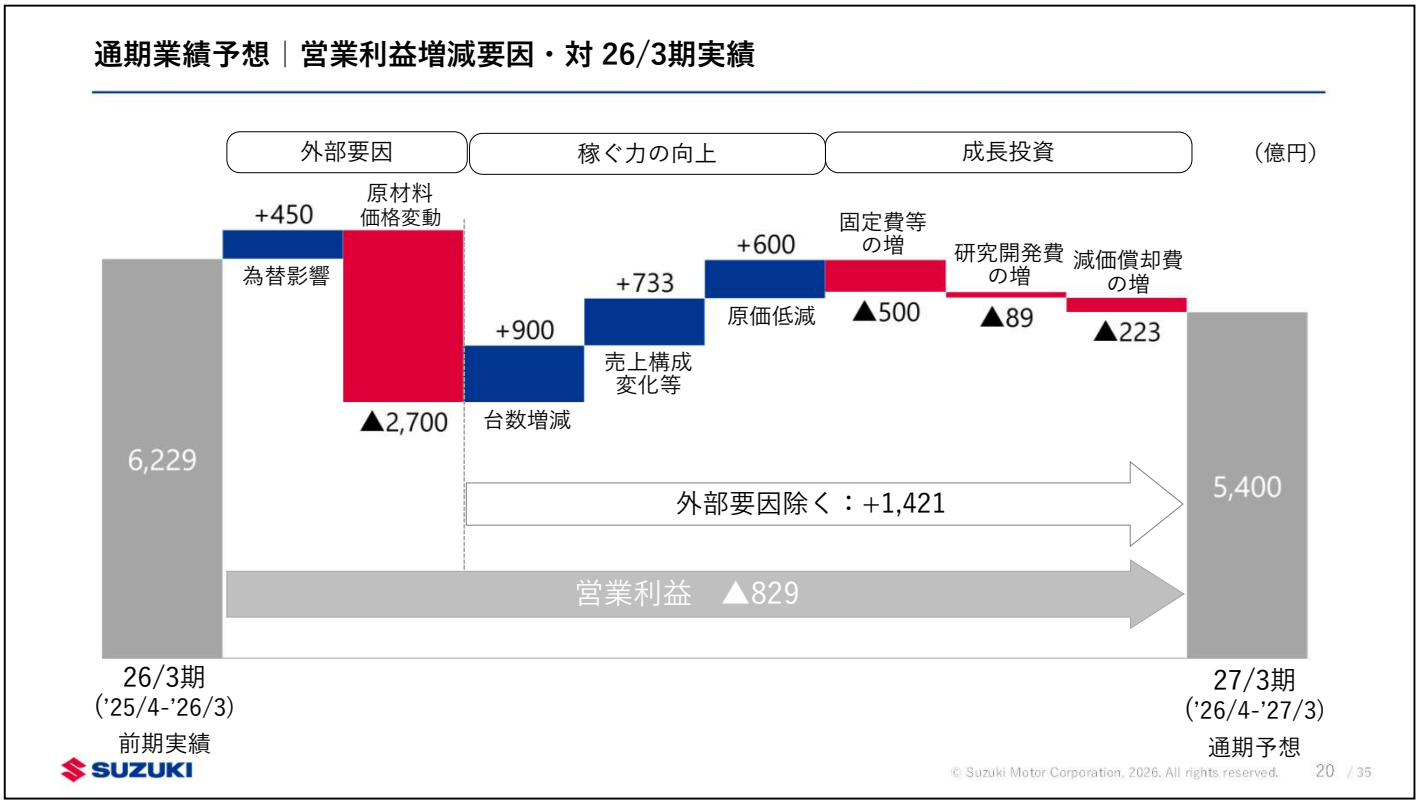


SUZUKI
© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

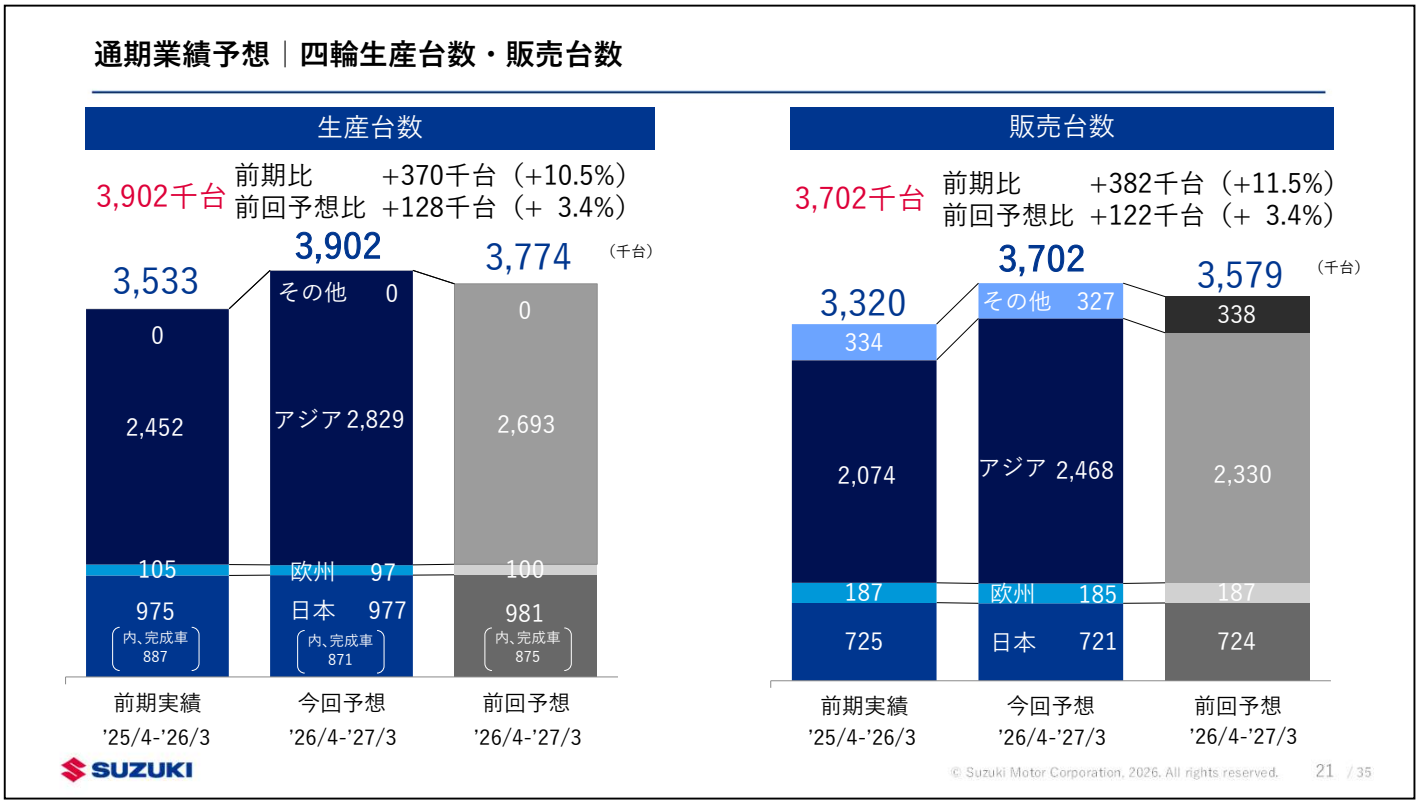
営業利益につきまして、
前回予想に対し据え置きとなった内訳を
ご説明いたします。

台数影響で200億円、
原価低減で100億円増加した一方、
主にインドでの原材料価格上昇分として
300億円の減少を見込み、
営業利益全体では前回予想の金額を据え置きました。

引き続き、チームスズキで全体最適を追求し、
環境変化に対し柔軟に連携して、稼ぐ力を向上していきます。

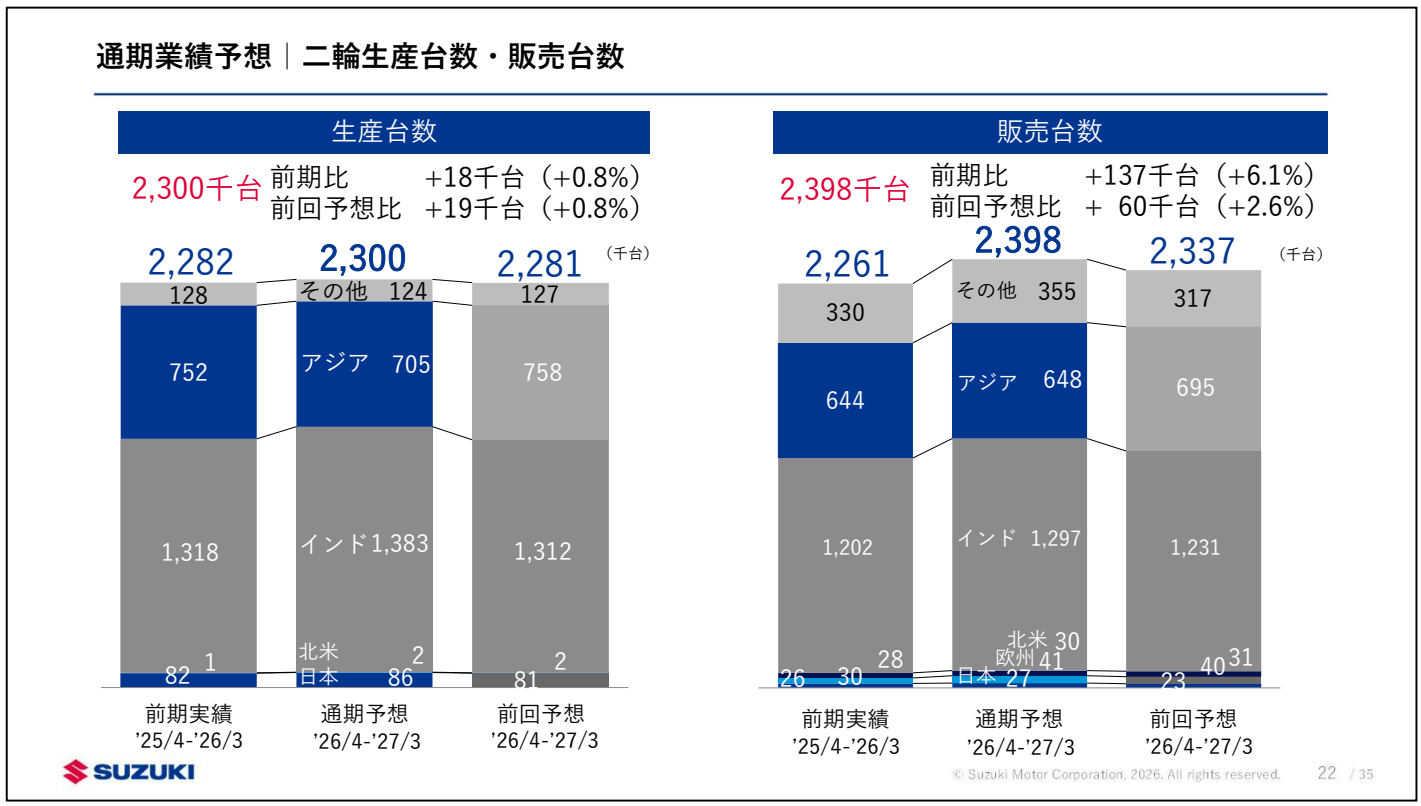


前期に対する営業利益の増減要因はご覧の通りとなります。



四輪車の販売台数につきましては、
前回予想より世界全体で12万2千台上方修正し、
前期に対しては、38万2千台の増加となります。
インドにおける旺盛な需要が主な要因です。
今後も、計画通りに生産能力を拡大し、需要を取り込んでまいります。

それに伴い、生産台数につきましても、
前回予想より世界全体で12万8千台上方修正し、
前期に対しては、37万台の増加となります。



二輪車の販売台数につきましては、
インド、コロンビアでの拡販等により、
世界全体では6万台の上方修正で、
前期比では13万7千台の増加となります。

なお、生産台数につきましては、インドでの好調を受け、
世界全体では1万9千台の上方修正で、
前期比では1万8千台の増加となります。

以上で、2027年3月期 第2四半期決算の説明を終わります。
この後のページには、売上収益の内訳など
補足資料を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

ご清聴ありがとうございました。

補足資料

2027年3月期 第2四半期決算｜売上収益の状況

(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合　計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減
国内計	7,926	7,558	＋368	94	82	＋11	17	17	＋0	57	63	▲7	8,093	7,721	＋373		▲129
自　社	7,368	7,032	＋336	94	82	＋11	17	17	＋0	57	63	▲7	7,535	7,194	＋341		
ＯＥＭ	558	526	＋32										558	526	＋32		
海外計	22,970	18,323	＋4,647	2,466	2,016	＋449	664	582	＋81				26,099	20,922	＋5,177	＋866	＋4,324
欧　州	3,460	2,665	＋795	293	223	＋70	113	106	＋7				3,867	2,995	＋872	＋298	＋498
北　米	3	2	＋1	174	210	▲36	373	300	＋73				550	511	＋38	＋46	▲48
アジア	15,990	12,461	＋3,529	1,206	1,103	＋103	61	60	＋1				17,257	13,624	＋3,633	＋57	＋3,869
インド	13,907	10,790	＋3,117	913	750	＋162	7	5	＋2				14,827	11,545	＋3,282	▲88	＋3,500
〃以外	2,083	1,671	＋412	294	353	▲59	53	55	▲1				2,430	2,079	＋351	＋145	＋369
その他	3,516	3,195	＋322	792	480	＋312	117	117	＋0				4,425	3,791	＋634	＋466	＋5
総合計	30,896	25,881	＋5,015	2,559	2,098	＋461	681	600	＋82	57	63	▲7	34,192	28,642	＋5,550	＋866	＋4,195
内、為替換算影響			＋625			＋184			＋58						＋866		

注．当期…2026年4月～9月期、前期…2025年4月～9月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜事業別業績、営業利益増減要因

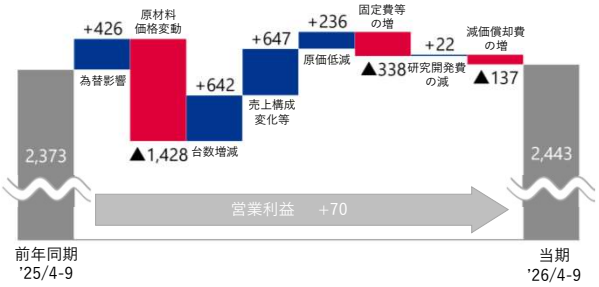
事業セグメント別業績

（億円）

	'26/4-9					'26/7-9				
	売上収益		営業利益			売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比		前年比	利益率
四　輪	30,896	+19%	2,443	+3%	7.9%	15,479	+16%	1,099	▲7%	7.1%
二　輪	2,559	+22%	283	+26%	11.1%	1,315	+25%	139	+42%	10.6%
マリン	681	+14%	175	+18%	25.7%	313	+11%	89	+58%	28.6%
その他	57	▲11%	15	▲20%	26.3%	28	▲8%	8	▲28%	27.4%
連結 計	34,192	+19%	2,916	+5%	8.5%	17,135	+17%	1,336	▲1%	7.8%

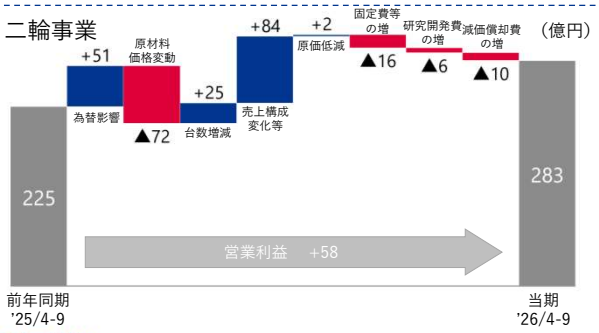
四輪事業

（億円）



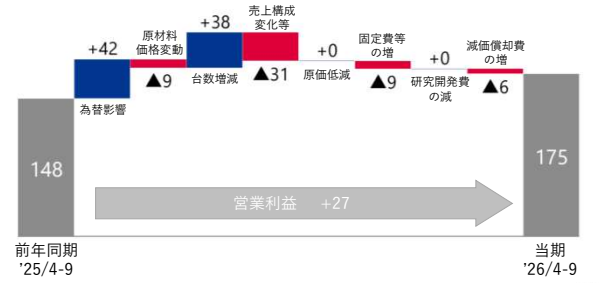
二輪事業

（億円）



マリン事業

（億円）



SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜所在地別業績、営業利益増減要因

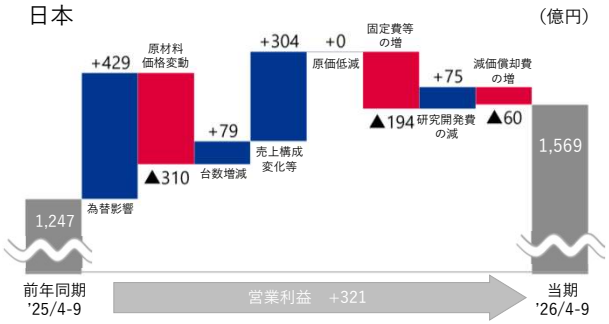
所在地セグメント別業績

（億円）

	'26/4-9					'26/7-9				
	売上収益		営業利益			売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比		前年比	利益率
日　本	16,960	+12%	1,569	+26%	9.2%	8,358	+5%	667	+11%	8.0%
欧　州	3,816	+14%	36	▲49%	0.9%	1,807	+1%	6	▲85%	0.4%
アジア	20,767	+27%	1,110	▲19%	5.3%	10,498	+23%	576	▲22%	5.5%
その他	2,649	+18%	216	+114%	8.2%	1,305	+13%	128	+139%	9.8%
連結計	34,192	+19%	2,916	+5%	8.5%	17,135	+17%	1,336	▲1%	7.8%

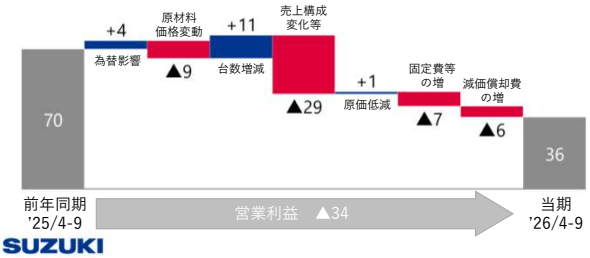
日本

（億円）



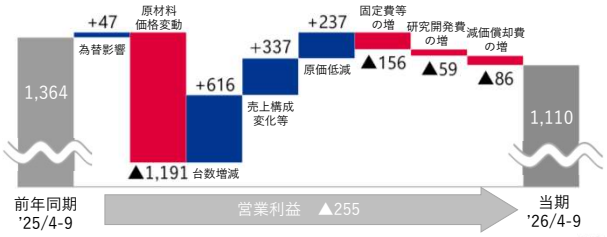
欧州

（億円）



アジア

（億円）



SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜マルチ・スズキ・インディア社の業績

		ルピー建（億ルピー）※1			円換算額（億円）		
		当上期	前年同期	増減	当上期	前年同期	増減
連結業績	売上収益※2	10,058	7,676	＋2,382	16,998	13,050	＋3,948
	営業利益※3 （利益率）	544 (5.4%)	645 (8.4%)	▲101	919 (5.4%)	1,096 (8.4%)	▲177
	税引前利益 （利益率）	766 (7.6%)	928 (12.1%)	▲162	1,295 (7.6%)	1,578 (12.1%)	▲283
	税引後利益 （利益率）	591 (5.9%)	714 (9.3%)	▲123	999 (5.9%)	1,214 (9.3%)	▲215
	為替レート	1.69円	1.70円	▲0.01円			
卸販売	国内販売※4	1,147千台	871千台	＋275千台			
	輸出※4	233千台	207千台	＋25千台			
	合計	1,379千台	1,079千台	＋301千台			

※1 ルピー建は、10月27日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値

※2 売上収益＝Sale of products

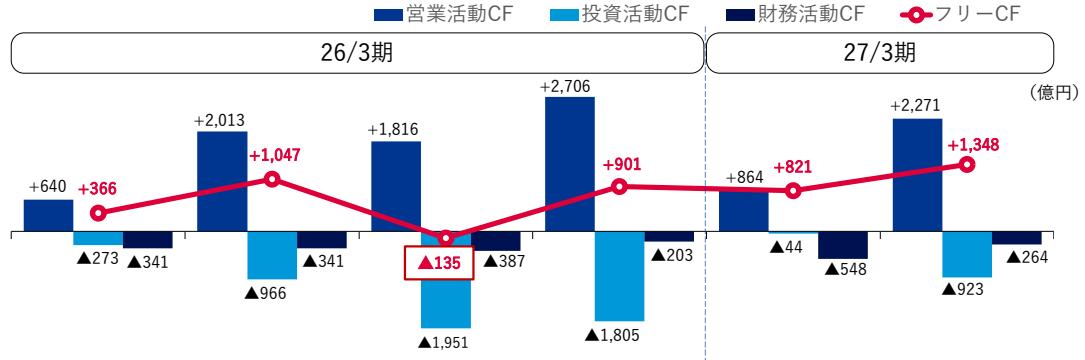
※3 営業利益は次式により算出　営業利益＝ Total Revenue from operations - Total Expenses + Finance costs

※4 国内販売および輸出はＯＥＭを含む

注．マルチ・スズキ・インディア社はＩｎｄＡＳ（インド版ＩＦＲＳ）に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜連結キャッシュフロー四半期推移



	26/3期				27/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
フリーCF	+366	+1,047	▲135	+901	+821	+1,348
財務CF	▲341	▲341	▲387	▲203	▲548	▲264
（内、配当金支払額※1）	(▲406)	(▲301)	(▲429)	(+0)	(▲464)	(▲313)
為替影響	+40	+101	+243	+14	+61	▲164
キャッシュ増減	+66	+808	▲279	+711	+334	+920
キャッシュ残高	8,493	9,300	9,022	9,733	10,066	10,987
ネットキャッシュ（月商比※2）	1,136 (0.2ヵ月)	1,941 (0.4ヵ月)	1,556 (0.3ヵ月)	2,247 (0.4ヵ月)	2,542 (0.4ヵ月)	3,350 (0.6ヵ月)

※1 非支配株主への配当金の支払額を含む
※2 月商比は、各期の通期売上収益の平均月商をもとに算出

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜設備投資等

	当期 ('26/4-9)	前期 ('25/4-9)	増 減
設備投資	2,151億円	1,700億円	＋451億円
当社単独	513億円	515億円	▲2億円
子会社	1,638億円	1,185億円	＋453億円
（内、インド）	(1,370億円)	(895億円)	(+476億円)
減価償却費	1,191億円	1,038億円	＋153億円
研究開発費	1,300億円	1,316億円	▲16億円

※ インド：マルチ・スズキ社、 SMIPL社 、TDSG社、SRDI社、Sデジタル社、NBV社 6社の合計
※ 無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績値に含まない

	当第2四半期末 ('26/9末)	前年同期末 ('25/9末)	前年同期末 増 減	前期末 ('26/3末)	前期末 増 減
有利子負債残高	7,637億円	7,360億円	+277億円	7,486億円	+151億円
連結子会社数	120社	124社	▲4社	121社	▲1社
持分法適用関連会社数	37社	36社	+1社	37社	+0社
従業員数	80,298人	76,819人	+3,479人	76,889人	+3,409人

※ リース負債は上記の実績に含まない

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

2027年3月期 第2四半期決算｜為替レートと為替影響額

	当期 ('26/4-9)	前年同期 ('25/4-9)	前年同期比 増減		営業利益 為替影響	
					感応度※	影響額
ユーロ	184円	168円	＋16円	+9.7%	＋10億円	＋162億円
南アフリカランド	9.74円	8.13円	＋1.61円	+19.8%	＋6億円	＋98億円
米ドル	159円	146円	＋13円	+9.2%	＋5億円	＋63億円
メキシコペソ	9.21円	7.66円	＋1.55円	+20.2%	＋4億円	＋60億円
パキスタンルピー	0.58円	0.52円	＋0.06円	+11.5%	＋7億円	＋44億円
オーストラリアドル	113円	95円	＋18円	+19.4%	＋2億円	＋40億円
コロンビアペソ	0.047円	0.036円	＋0.012円	+32.5%	＋23億円	＋27億円
インドルピー	1.69円	1.70円	▲0.01円	▲0.6%	－	＋25億円
その他	－	－	－	－		＋1億円
営業利益 為替影響額　合計						＋520億円

※感応度…レートが１円円安方向に動いた際の営業利益影響額。
ただし、南アフリカランド、メキシコペソは0.1円、パキスタンルピー、コロンビアペソ、インドルピーは0.01円動いた際の、
営業利益影響額。

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

通期業績予想｜設備投資・減価償却費・研究開発費

前回予想を据え置き

（億円）	通期予想	前期実績	増減
設備投資	3,800	3,507	＋293
減価償却費	2,400	2,177	＋223
研究開発費	2,800	2,711	＋89

※ 無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績・予想に含まない

SUZUKI
© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

通期業績予想｜為替レートと為替影響額

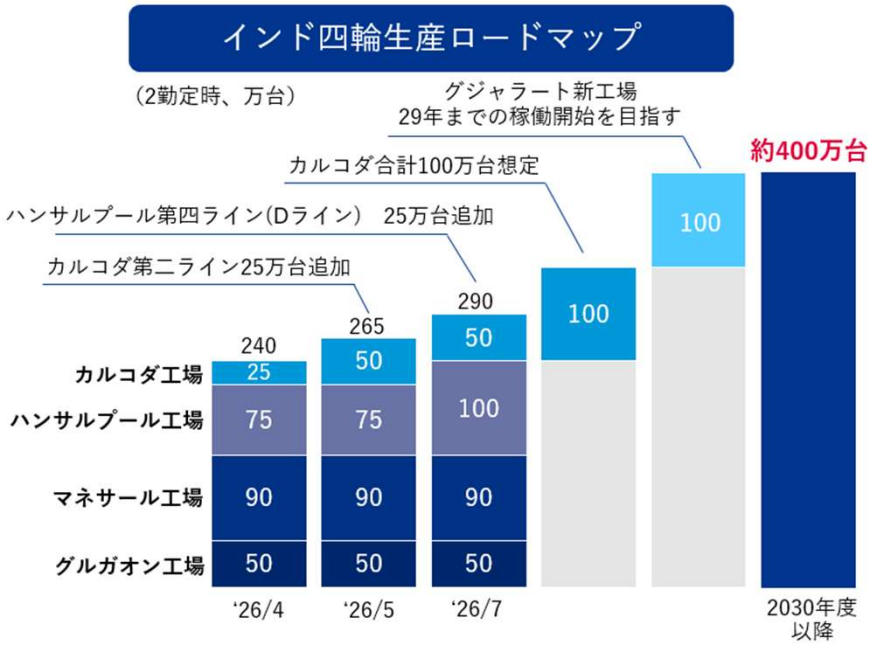
	通期予想 ('26/4-'27/3)	前期実績 ('25/4-'26/3)	前期比増減		営業利益 為替影響	
					感応度※1	影響額
ユーロ	181円	175円	＋6円	+3.6%	＋18億円	＋117億円
南アフリカランド	9.62円	8.71円	＋0.91円	+10.4%	※1 ＋12億円	＋109億円
メキシコペソ	8.96円	8.16円	＋0.80円	+9.8%	※1 ＋8億円	＋62億円
米ドル	159円	151円	＋8円	+5.5%	＋9億円	＋73億円
オーストラリアドル	111円	100円	＋12円	+11.8%	＋4億円	＋47億円
パキスタンルピー	0.58円	0.54円	＋0.04円	+7.4%	※1 ＋15億円	＋60億円
コロンビアペソ	0.048円	0.039円	＋0.009円	+24.4%	※1 ＋42億円	＋39億円
ポンド	212円	202円	＋10円	+4.8%	＋2億円	＋17億円
インドルピー	1.68円	1.72円	▲0.04円	▲2.3%	※1 ＋28億円	▲75億円
営業利益為替影響額　合計 ※2						＋450億円

※1 感応度…レートが1円円安方向に動いた際の営業利益影響額。
ただし、南アフリカランド、メキシコペソは0.1円、パキスタンルピー、コロンビアペソ、インドルピーは0.01円動いた際の、営業利益影響額。
※2 合計はその他通貨の影響を含む

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

インド｜生産体制の強化



© Suzuki Motor Corporation, 2026. All rights reserved.

SUZUKI

2027年3月期　第2四半期決算説明会



2026年11月10日　スズキ株式会社

（ご参考）裏表紙画像：スズキ公式ファンイベント
「GSX-S/Rミーティング2026」(2026.10.11開催)の様子
(参加二輪車数：2,512台、参加者数：3,087名)

SUZUKI
By Your Side

将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おきください。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。